

平成16年度における運用状況

○ 平成16年度(平成16年4月～平成17年3月)の運用環境

平成16年度において、国内では、夏場にかけて景気回復への期待の高まりから金利は上昇(債券価格は低下)し、株式は株価の変動を伴いつつも、上昇の気配を示しました。その後は、景気回復に力強さを欠く、いわゆる「踊り場」となったことを背景に、金利は低下(債券価格は上昇)に転じ、株価も軟調に推移することとなりましたが、年度末にかけて株式が活況を呈し、年度通算で上昇に転じました。

また、外国の債券や株式は、年度を通して好調を維持しました。

なお、基金が保有する各資産のベンチマーク・インデックスの推移は、別添のとおりとなっています。

○ 平成16年度のポートフォリオ別の運用状況(決算修正前)

1 被保険者ポートフォリオ

被保険者及び待期者に係る資産の運用状況は、上記運用環境を反映し、次表のとおり、平成16年度末の時価総額は604億30百万円となり、平成16年度の総合収益は+16億90百万円となりました。この間の修正総合利回りは+3.40%となっています。

なお、運用収益を運用開始(平成14年2月)以降の累計でみた場合、平成16年度末では+29億78百万円となっています。

(単位:百万円、%)

資 産	平成15年度末 時価総額 ①	16年度保険料・ 国庫補助投下額②	計 ③(①+②)	平成16年度末 時価総額 ④	16年度総合収益 ④-③	修正総合 利 回 り	時価総額 構成割合
国内債券	33,240	9,406	42,646	43,270	624	1.76	71.6
国内株式	4,166	4,678	8,844	9,081	237	3.07	15.0
外国債券	1,935	52	1,987	2,192	205	11.42	3.6
外国株式	1,555	3,543	5,098	5,765	667	14.90	9.5
短期資産	1,438	-1,274	164	121	-43	-18.46	0.2
合 計	42,335	16,405	58,740	60,430	1,690	3.40	100.0

(注) 1. 外国資産に係る保管手数料及び外貨流動性預金に係る為替差損益等は、「短期資産」欄で整理しています。

2. 「短期資産」欄の数値は、信託報酬を控除したものです。

3. 単位未満を四捨五入しているため、「合計」欄で合わない場合があります。(以下同じ)

2 被保険者危険準備金ポートフォリオ

平成16年度における被保険者及び待期者に係る付利準備金及び調整準備金の運用状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:千円、%)

区 分	資 産	平成15年度末 時価総額 ①	16年度繰入額②	計 ③(①+②)	平成16年度末 時価総額 ④	16年度総合収益 ④-③	修正総合 利 回 り
付利準備金	短期資産	145,440	60	145,500	145,592	92	0.07
調整準備金	短期資産	72,363	-210	72,153	72,199	46	0.07
合 計		217,803	-150	217,653	217,790	137	0.07

3 受給権者ポートフォリオ

平成16年度における受給権者に係る資産の運用状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:千円、%)

資 産	平成15年度末 時価総額 ①	16年度繰入額②	計 ③(①+②)	平成16年度末 時価総額 ④	16年度総合収益 ④-③	修正総合 利 回 り
国内債券	3,588	28,393	31,980	33,443	1,463	8.00
短期資産	230	2,069	2,299	2,299	0	0.00
合 計	3,818	30,462	34,280	35,743	1,463	7.51

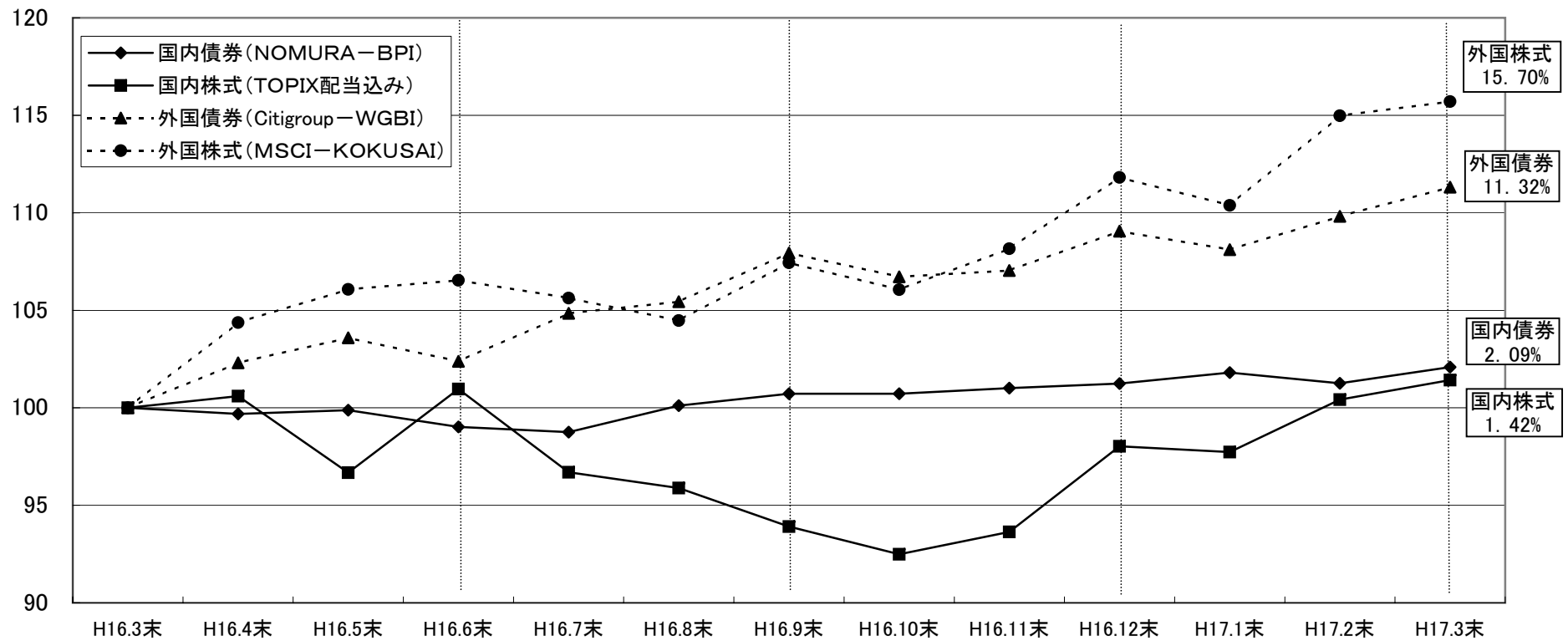
4 受給権者危険準備金ポートフォリオ

平成16年度における受給権者に係る調整準備金の運用状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:千円、%)

区 分	資 産	平成15年度末 時価総額 ①	16年度繰入額②	計 ③(①+②)	平成16年度末 時価総額 ④	16年度総合収益 ④-③	修正総合 利 回 り
調整準備金	短期資産	6,062	15,018	21,081	21,083	2	0.01

ベンチマーク・インデックスの推移 (H16.3末=100)



○ベンチマーク騰落率

	平成16年4月～平成17年3月
国内債券 (NOMURA-BPI総合)	2.09%
国内株式 (TOPIX配当込)	1.42%
外国債券 (Citigroup-WGBI)	11.32%
外国株式 (MSCI-KOKUSAI)	15.70%

○運用環境

	平成16年3月末	平成16年6月末	平成16年9月末	平成16年12月末	平成17年3月末
国内債券 (新発10年国債利回り)	1.435%	1.780%	1.440%	1.435%	1.320%
(NOMURA-BPI総合)	293.529ポイント	290.657ポイント	295.651ポイント	297.189ポイント	299.667ポイント
国内株式 (日経225)	11,715.39円	11,858.87円	10,823.57円	11,488.76円	11,668.95円
(TOPIX配当込)	1,340.15ポイント	1,353.03ポイント	1,258.51ポイント	1,313.66ポイント	1,359.22ポイント
外国債券 (米国10年国債利回り)	3.837%	4.583%	4.123%	4.218%	4.486%
(Citigroup-WGBI)	254.41ポイント	260.48ポイント	274.61ポイント	277.46ポイント	283.20ポイント
外国株式 (NYダウ)	10,357.70ドル	10,435.48ドル	10,080.27ドル	10,783.01ドル	10,503.76ドル
(MSCI-KOKUSAI)	973.517ポイント	1,037.156ポイント	1,045.929ポイント	1,088.545ポイント	1,126.386ポイント

専門用語の解説

○ ポートフォリオ

もともとは、折りかばんを意味するものであったが、投資家が保有資産をさまざまな証券(銘柄)で組み合わせて保有していることから転じて、証券分析においては、種々の有価証券を組み合わせたものを意味するものとして使われている。

○ 総合収益

有価証券の売買損益や債券利息、株式配当金といった実現収益だけでなく、未収利息の増減や、評価損益の増減を加味した時価ベースの収益のこと。

○ 修正総合利回り

運用成果を測定する尺度の1つ。

総合収益率は、運用元本を簿価ベースで計算したものであるのに対し、修正総合利回りは、運用元本に時価の概念を加味した収益率のことで、総合収益率より更に時価ベースにした収益率。

算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す際に、時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として、広く普及している。

(計算式)

$$\text{修正総合利回り} = \frac{\text{実現収益} + \text{評価損益増減(当期末評価損益} - \text{前期末評価損益)} + \text{未収収益増減(当期末未収収益} - \text{前期末未収収益)}}{\text{運用元本平均残高} + \text{前期末評価損益} + \text{前期末未収収益}}$$

○ ベンチマーク

運用成果を評価する際に、相対比較の基準となる指標。

運用収益率の絶対値の高低による評価は、投資環境の違いを反映せず、運用期間が異なる場合に、その比較が不可能である。しかし、投資環境を反映する指標(TOPIX等)があれば、指標に対してどの程度上回る収益率を達成できたかを算出することにより、運用期間の異なるものとの比較が可能。

* NOMURA-BPI総合

野村総合研究所が作成・発表している国内債券市場の指標。国内債券の指標としては代表的なものであり、基金もベンチマークとして採用。

* TOPIX(配当込)

東証一部上場全銘柄の株価を株式数で加重平均して算出したもの。国内株式市場の代表的な指標であり、基金もベンチマークとして採用。

* Citigroup-WGBI(除く日本)(旧SSB-WGBI)

シティグループが作成・発表している世界国債の指標。時価総額につき一定基準を満たす世界の国債について、投資収益率を指数化したもの。外国債券投資の指標としては代表的な存在。基金も外国債券のベンチマークとして採用。

* MSCI-KOKUSAI(配当込)

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社が作成・発表している日本を除く主要国で構成された外国株式指数。対象国の包括性、切り口の多様性等の点で、外国株式投資の指標としては代表的な存在。基金も外国株式のベンチマークとして採用。